

# 事 業 概 要

## 事業概況

市民の保健衛生に係る諸問題へのアプローチとして、多方面にわたる調査研究を積極的に推進し、多くの成果をあげている。

細菌・ウイルス検査部門では、57年10月に発生した、飲料水の細菌汚染による大規模食中毒事件を踏まえて、本市の排水路等における食中毒菌などの調査を昭和58年度以来水質検査部門と合同で本年度も実施した。細菌検査として腸管系病原菌、コレラ菌、食品細菌を、ウイルス検査としてインフルエンザ、風疹抗体価などを実施した。

臨床検査部門では、昭和52年以来、先天性代謝異常、小児がん神経芽細胞腫、先天性副腎皮質過形成のマス・スクリーニングを実施し、新生児100名を患者を発見し、早期治療に結びつけるなど大きな成果をあげている。また本年、妊婦甲状腺機能検査を新たに取り上げ17名の患者を発見し母子保健の向上に努めている。

環境検査部門では、飲料水、プール水、公衆浴場水、繊維製品や家庭用洗剤などの家庭用品の検査、寒冷地における一般家庭の住居衛生に関する調査を実施している。

食品検査部門では、乳、乳製品、清涼飲料水、即席めん、容器包装の規格検査、食品中の添加物、重金属、残留農薬、抗菌剤検査のほか、厚生科学研究の「食品添加物1日摂取量調査」に参加し、プロピレングリコール等7成分の摂取量調査を実施し、さらに地研協議会による食物繊維の分析にも参加した。

大気検査部門では、降下ばいじん、重油中のいおう分測定、雨水成分、悪臭などの検査を行っている。

本年度は環境庁の委託業務として「未規制大気汚染物質モニタリング」に参加し、ホルムアルデヒド濃度を測定した。

また、近年、大きな社会問題となっているスパイクタイヤによるアスファルト粉じん調査については、昭和59年度から第3次5カ年計画により、公害部とともに一般環境中の調査を行っている。

なお、車粉問題の解決を図るため、昭和62年4月1日より「札幌の街を車粉から守るためスパイクタイヤの使用を規制する条例」の施行がなされた。

水質検査部門では、河川水の定点観測、鉱山排水、工場排水の定期監視による水質検査のほか、排水路等環境調査の一環として、化学検査を実施している。

また、地下水汚染の実態把握を目的に、有機塩素系化合物の分析を行った。

なお、昭和61年度の試験検査状況は表1、表2のとおりであります。

表 1 試験検査実施件数

昭和61年度

検査内訳		件数	検査内訳		件数			
細菌検査	分離・同定	腸内細菌	1,094	飲料水検査	水道水	細菌学的検査	0	
		レンサ球菌	0			理化学的検査	0	
		ジフテリア菌	0			浄水	細菌学的検査	231
		その他の細菌	201			理化学的検査	347	
	血清検査	0	井戸水		細菌学的検査	951		
	化学療法剤に対する耐性検査	0			理化学的検査	1,086		
動物試験	-	その他	細菌学的検査		85			
			理化学的検査		104			
ウイルス・リケッチア検査	分離・同定	ポリオ	-		利用水	細菌学的検査	18	
		日本脳炎	-			理化学的検査	24	
		インフルエンザ	15	下検水関係検査	細菌学的検査	374		
		その他のウイルス・リケッチア	0		理化学的検査	608		
	血清検査	ポリオ	-	清掃関係検査	生物学的検査	-		
		日本脳炎	-		し尿	細菌学的検査	-	
インフルエンザ		29	理化学的検査		-			
動物試験	-	その他の	生物学的検査	-				
結核	培養検査	84	その他	-				
	化学療法剤に対する耐性検査	0						
性病	梅毒	2,100	公害関係検査	大気	SO <sub>2</sub> ・NO・NO <sub>2</sub> ・O <sub>x</sub> ・CO	-		
	りん病	0			浮遊粒子状物質(粉じんを含む)	2,703		
	その他	0			降下ばいじん	1,307		
その他	0	その他			885			
寄原生虫	寄生虫	811		河汚川濁	理化学的検査	713		
	原虫類	108			その他	464		
	殺虫剤効力・耐性	-			その他	817		
食中毒	細菌学的検査	594		一環般境	一般室内環境	82		
	理化学的検査	0			浴場水・プール水	127		
臨床検査	血液	血液型		-	放射能	雨水・陸水	-	
		血液一般検査	15	食品		-		
		生化学検査	1,213	その他		-		
		先天性代謝異常検査	19,534	温泉(鉱泉)泉質検査	-			
		その他	60,702	家庭用品検査	155			
	尿	15,661	薬栄品養	特殊栄養食品	-			
	便	-		その他	-			
	病理組織学的検査	-	その他	-				
	その他	-						
	食品検査	細菌学的検査	1,355					
理化学的検査		1,144						
その他		0						

(注) 厚生省報告例による。

表2 依頼者別試験検査検査体数

区分	検査項目	検査検査体数																						
		総数	細菌検査	ウイルス検査	リケッチア検査	結核	性病	寄生虫・原虫	食中毒	病理(①から⑨を除く)・生化学検査	食品検査	水質検査	下水関係検査	清掃関係検査	公害関係検査	一般環境	放射能	温泉(鉱泉)泉質検査	家庭用品検査	薬品	栄養	その他		
依頼によるもの	保健所(検査室)	21,924	574	581	0	84	2,100	308	594	16,889	785	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	保健所以外の行政機関	942	0	0	0	0	0	0	0	0	822	107	0	0	0	13	0	0	0	0	0	0	0	
	医療施設	80,810	0	376	0	0	0	0	0	80,236	0	198	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	学校及び事業所	2,619	489	0	0	0	0	552	0	0	420	1,069	0	0	3	86	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	631	38	230	0	0	0	39	0	0	1	269	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0
自ら行うもの		8,380	56	0	0	0	0	0	0	910	823	0	0	6,405	82	0	0	0	104	0	0	0	0	

(注) 厚生省報告例による。

## 1 微生物検査

微生物検査係では、市民からの依頼と関係法令（伝染病予防法、食品衛生法等）に基づく行政サイドからの依頼により細菌、ウイルスの病原微生物を中心に検査を行う一方、これらに係わる調査研究を実施している。

昭和61年度における微生物検査の実施状況は表1のとおり、検体数4,865、延べ検査項目数12,114であった。主な業務内容は、次のとおりである。

### (1) 細菌検査

#### ア 腸管系病原菌検査

法定伝染病原菌の検査依頼は、1,097検体あり、便の培養検査を行った。このうち、防疫検便から赤痢菌を1株検出した（表2）。

この検査依頼の中で、海外旅行者85人の主な腸管系病原菌の検出状況は、赤痢菌1人の他、病原大腸菌8人、サルモネラ菌5人であった（表3）。

また、食中毒、海外旅行者等から分離したヒト由来サルモネラ菌は、14種類の血清型に分別された（表4）。

#### イ 食品細菌検査

行政機関及び一般事業者から794検体の検査依頼があった。このうち行政機関の依頼は全体の7割で昨年と同様であった（表5）。検査項目では、今年度も生菌数、大腸菌群の依頼が多かったが、食中毒菌のなかでは、セレウス菌、黄色ブドウ球菌がそれぞれ168検体、141検体と多かった（表6）。

#### ウ 細菌性食中毒検査

食中毒の疑いで68件、延べ594検体について細菌検査を行った。このうち、衛生管理部が食中毒と認定したものは、9件あり、検査の結果原因菌としては、ウェルシュ菌が4件と多かったが、これらはいずれも患者数100名を超える大規模なものであった（表7）。

#### エ 結核菌検査

保健所の管理検診、住民検診等による175検体について喀痰検査を行った。このうち塗沫検査陽性数8検体、培養検査陽性数14検体であった。

#### オ コレラサーベイランス

昭和53年11月から本市におけるコレラ防止対策に万全を期すため実施している。昭和61年度は、下水処理場の流入水48検体と汚泥47検体について検査を行った。その結果、コレラ菌（O-1）は検出なかったが、いわゆるNAGビブリオが流入水で9検体（18.8%）、汚泥で6検体（12.8%）検出した（表8）。なお、NAGビブリオ検出率は、ここ数年減少傾向にある。

#### カ 排水路水等環境調査

昭和57年10月に、飲料水汚染による大規模食中毒事件（患者数7,700余人）が発生したが、この教訓により、昭和58年4月から衛生行政の一助とするため、市内全域にわたり排水路水および河川水中の食中毒菌の調査を行ってきた。昭和61年度は、調査地点数21、検体数124、延検査項目数1,627について行い、その結果、ウェルシュ菌（96%）、セレウス菌（71%）、エロモナス菌（40%）が昨年と同様高濃度に検出した（表9）。

(2) ウイルス検査

ア インフルエンザ流行調査

昭和62年1月下旬、市内3小中学校で集団発生があり、15名中11名のうがい液からインフルエンザAソ連型が分離された。その後、2月上旬をピークとする流行となったがその規模は、過去5年間で最小のものであった。

イ 風疹抗体価検査

市内7保健所及び医療機関からの依頼により、妊婦を含む成人女性を中心に、1,062検体について風疹抗体価の検査を行った。

ウ トキソプラズマ抗体価検査

市内7保健所から依頼のあった101検体について、ラテックス凝集法によりトキソプラズマの抗体価の検査を行った。

表1 微生物学的検査実施数

昭和61年度

区 分		検 体 数	延検査項目数
便	腸管系病原菌	1,097	2,191
	寄生虫卵	853	853
結	核 菌	84	168
食 中 毒	便・吐物	250	1,460
	食 品	160	1,265
	関 連 材 料	184	1,048
食 品	衛 生 細 菌	794	1,965
ウ イ ル ス	分 離	15	15
	血 清	29	29
	風 疹	1,062	1,062
	ト キ ソ プ ラ ズ マ	101	101
下 水	腸管系病原菌	95	95
排 水	路 水 等	141	1,862
総	数	4,865	12,114

表2 法定伝染病病原菌検査状況

昭和61年度

項目 区分	赤痢菌		サルモネラ菌 (腸チフス, パラチフスA)		コレラ菌	
	検体数	陽性数	検体数	陽性数	検体数	陽性数
保健所クリニック	238	0	238	0	—	—
防 疫	336	1	336	0	85	0
そ の 他	520	0	520	0	—	—
総 数	1,094	1	1,094	0	85	0

表3 海外旅行者の腸管病原菌検出状況

昭和61年度

年月	検査者数	陽性者数	菌 種 名 <sup>2)</sup>							検出菌種数	混合感染菌種
			赤痢菌	サルモネラ菌	病原大腸菌 <sup>1)</sup>	NAG ビブリオ	腸炎ビブリオ	ビブリオフルビオアリス	プレジオモナス菌		
61 4	12	3			2				1	3	
5	5	2			2					2	
6	0	0								—	
7	3	0								—	
8	10	3		2			1	1		4	Sal (O4)+V. p (K33)
9	2	1		1						1	
10	9	2				1	1			2	
11	1	1			1 (1)					1	
12	1	1			1					1	
62 1	6	1	1							1	
2	36	7		2	2				3	7	
3	0									—	
総 数	85	21	1	5	8 (1)	1	2	1	4	22	
検出率 (%)		25	1	6	9	1	2	1	5	26	

1) カッコ内は毒素原性大腸菌 (LT 産生) の再掲

2) 重要病原菌の血清型 (デンカ生研 診断用免疫血清)

赤痢菌; D-1 (1)

サルモネラ菌; O4 (3), O3, 10 (2)

病原大腸菌; O6 (1), O86 (2), O55 (1), O111 (1), O128 (1), O148 (1), O159 (1)

腸炎ビブリオ; O3:K33 (1), O4:K8 (1)

表4 ヒト由来のサルモネラ菌型

昭和61年度

血清型 <sup>1)</sup>	菌型	海外 旅行者	医療機関 <sup>2)</sup>		食中毒	計
			一般			
O4:b:1, 2	S paratyphi B			1		1
O4:G(f, g)	S derby	1				1
O4:i:1, 2	S typhimurium	2		18	1	21
O7:G(m, t)	S oranienburg		1			1
O7:r:1, 2	S virchow			1		1
O7:r:1, 5	S infantis			4		4
O7:z <sub>10</sub> :en, z <sub>15</sub>	S mbandaka			3		3
O8:Lv:1, 2	S litchfield			1	17	18
O9:d:-(Vi+)	S typhi			1		1
O9:G(g, m)	S enteritidis				2	2
O3,10:eh:1, 6	S anatum	1				1
O3,10:Lv:1, 6	S london			1		1
O3,10:z <sub>10</sub> :1, 5	S. lexington	1				1
OUK:k:1, 5					5	5
計		5	1	30	25	61

1) デンカ生研診断用免液血清

2) 病院検査室, 臨床検査所より菌株送付のあったもの

表5 食品細菌検査依頼別検体数

昭和61年度

依頼先 検体種別	総数	行政機関		一般
		保健所	衛生管理部	
牛乳加工乳	60	16	8	36
魚介類	55	3	34	4
冷凍食品	82	10	10	35
魚介類加工品	147	41	20	21
肉卵類加工品	59	55	43	49
乳製品, 乳類加工品	31	24	32	3
アイスクリーム, 氷菓	71	15	11	5
穀類及び加工品	17	0	67	4
野菜, 果物及び加工品	45	10	1	6
菓子類	31	34	0	11
清涼飲料水	5	0	22	9
氷雪	150	4	0	1
その他	41	48	40	62
総数	794	260	288	246



表6 食品細菌検査項目内訳

昭和61年度

検査項目 検体種別	生菌数	大腸 菌群	食中毒起因菌					その他	総数
			黄色ブドウ 球菌	腸炎 ビブリオ	ウエル シュエ菌	サルモ ネラ菌	セレウス 菌		
牛乳,加工乳	60	60	0	0	0	0	0	0	120
魚介類	40	41	1	25	0	4	0	20	131
冷凍食品	55	50	7	0	0	0	0	0	112
魚介類加工品	9	83	4	3	1	4	1	3	108
肉卵類加工品	51	139	39	0	21	34	21	21	326
乳製品,乳類加工品	28	59	1	0	0	0	0	23	111
アイスクリーム,氷菓	31	31	0	0	0	0	0	0	62
穀類及び加工品	71	71	1	0	0	0	67	0	210
野菜,果物及び加工品	2	15	3	13	0	1	0	0	34
菓子類	41	47	40	0	0	0	0	0	128
清涼飲料水	2	30	1	0	1	2	1	0	37
氷雪	5	5	0	0	0	0	0	0	10
その他	134	137	44	0	61	61	78	53	568
総数	529	768	141	41	84	106	168	120	1,957

表7 細菌性食中毒発生状況

昭和61年度

発生 番号	発生 年月日	摂食 者数	患者数	原因食品	便		食品		関連材料		原因菌
					検体数	陽性数	検体数	陽性数	検体数	陽性数	
1	61.6.23	12	9	おにぎり	7	4	15	0	13	1	黄色ブドウ球菌
2	8.1	146	107	肉じゃが	18	17	18	1	18	0	ウエルシュエ菌 (Hobbs型不明)
3	8.13	954	144	不明	66	44	14	0	21	1	ウエルシュエ菌 (Hobbs型不能)
4	9.4	198	139	弁当 (うま煮)	26	17	8	0	13	0	ウエルシュエ菌 (Hobbs 15型)
5	9.21	95	17	仕出し (不明)	12	2	7	6	14	3	黄色ブドウ球菌
6	10.17	18	16	ドライカレー	0	0	5	4	0	0	セレウス菌
7	10.18	162	135	弁当 (不明)	13	10	11	11	18	0	ウエルシュエ菌 (Hobbs型不明)
8	10.26	176	112	弁当 (不明)	25	15	1	0	21	0	サルモネラ菌 (リッチフィールド)
9	12.11	4	4	かに クリーム煮	4	4	1	1	0	0	黄色ブドウ球菌 (コアグラーゼⅦ型)

表 8 下水処理場流入水のコレラ菌サーベイランス

昭和61年度

採水場所	検体別		流入水		汚泥		計	
	検体数	陽性数	検体数	陽性数	検体数	陽性数	検体数	陽性数
新川下水処理場	12	(3)	12	(1)	24	(4)		
創成川下水処理場	12	(4)	11	(3)	23	(7)		
豊平川下水処理場	12	(0)	12	(0)	24	(0)		
厚別下水処理場	12	(2)	12	(2)	24	(4)		
総数	48	(9)	47	(6)	95	(15)		

※ ( )内は、NAGビブリオ

表 9 排水路等環境調査

昭和61年度

区分 (対象地点数)	検体数	病原菌検出数 (%)									延検査 項目数
		ウエルシュ菌	セレウス菌	エロモナス	黄色ブドウ球菌	NAG ビブリオ	サルモネラ	エルシニア エンテロコ リチカ	病原大腸菌	プレシオモナス シゲロイデス	
排水路水 (12)	70	68 (97)	48 (68)	27 (38)	18 (26)	2 (2.9)	0 (-)	3 (4.3)	2 (2.9)	0 (-)	910
河川水 (9)	54	51 (94)	40 (74)	23 (42)	3 (5.6)	34 (63)	10 (18)	3 (5.6)	0 (-)	0 (-)	702
総数 (21)	124	119 (96)	88 (71)	50 (40)	21 (17)	36 (29)	10 (8.1)	6 (4.8)	2 (1.6)	0 (-)	1,612

## 2 臨床検査

臨床検査係では、従来から行っている一般臨床検査に加え、行政方針として昭和52年度から全国に先がけて、新生児の先天性代謝異常等のマス・スクリーニングを実施し、61年度までに202,582人の検査を行い先天性代謝異常症33人、先天性甲状腺機能低下症33人、先天性甲状腺ホルモン結合たん白欠損症10人、先天性副腎皮質過形成7人、計83人を発見したほか、56年度から乳児を対象に神経芽細胞腫マス・スクリーニングを実施し、61年度までに88,887人の検査を行い17人を、合計100人の患児を発見し早期治療に結びつけるなど大きな成果をあげている。

### 〔業務報告〕

61年度の主な業務内容は下記のとおりである。

#### (1) 一般臨床検査

一般臨床検査は、行政及び市民からの依頼によるもので、検査件数は5,430件である。内訳は、性病予防法に基づく結婚・妊娠時や健康診断受診時の梅毒検査並びにHB抗原抗体検査がほとんどである(表1, 2)。

#### (2) 先天性代謝異常マス・スクリーニング

市内で出生した全新生児を対象に血液ろ紙を用いて検査を行った。検査件数は19,534人である。検査内容は、フェニールケトン尿症、ガラクトース血症、ヒスチジン血症、ホモシスチン尿症、メイプルシロップ尿症の5種目で、北大、札医大のコンサルタントによる精密検査の結果、1例がフェニールケトン尿症、2例がヒスチジン血症と診断された。61年度までの総検査件数は202,582件であり、その発見頻度は1/6,139である(表3)。

#### (3) 先天性甲状腺機能低下症(クレチン症)マス・スクリーニング

53年6月から、市内で出生した全新生児を対象に血液ろ紙を用いて放射性免疫測定法により検査を行っている。検査件数は19,534件であり、精密検査の結果5例の患児を発見した。

61年度までの総件数は183,323件で、発見頻度は1/5,555である(表3)。

#### (4) 先天性甲状腺ホルモン結合たん白欠損症(TBG欠損症)マス・スクリーニング

55年5月から、クレチン症と同様に検査を行っている。検査件数は19,534件であるが、患児は発見されなかった。61年度までの総件数は141,313件で、発見頻度は1/14,131である(表3)。

#### (5) 先天性副腎皮質過形成マス・スクリーニング

57年5月から全新生児を対象に血液ろ紙を用いて酵素免疫測定法により検査を行っている。検査件数は19,534件であり、精密検査の結果1例の患児を発見した。61年度までの総数は100,048件で、その発見頻度は1/14,292である(表3)。

#### (6) 神経芽細胞腫マス・スクリーニング

56年度から市内に居住する生後6~12カ月の乳児を対象に、尿ろ紙を用いて高速液体クロマトグラフィ法などによって検査を行っている。検査件数は15,661件であり、精密検査の結果、2例の患児を発見した。対象乳児に対する受検率は82.1%である。61年度までの総数は88,887件で、その発見頻度は、1/5,228である(表4)。

#### (7) 妊婦甲状腺機能マス・スクリーニング

61年6月から市内の医療機関を受診する妊婦を対象に、血液ろ紙を用い、4項目の検査から甲状

腺機能異常をスクリーニングしている。検査件数は2,100件であり、精密検査の結果、バセドウ病等17例の患者を発見した(表5)。

表1 一般臨床検査状況

昭和61年度

区 分		件 数
血 清	ガ ラ ス 板 法	2,100
	梅 毒 血 球 凝 集 反 応 ( T P H A )	2,100
	精 密 検 査 ( 凝 集 法 , 緒 方 法 )	2
	H B s 抗 原 検 査	795
	H B s 抗 体 検 査	382
	H B e 抗 原 抗 体 検 査	36
血 液	血 液 一 般 検 査	15
総 数		5,430

表2 HBs抗原抗体検査陽性率

昭和61年度

区 分	検 体 数	陽 性	陽 性 率
H B s 抗 原 検 査	795	36	4.5 %
H B s 抗 体 検 査	382	29	7.6

表3 先天性代謝異常等検査状況

昭和61年度

区 分	件 数	再検査数	精密検査	患 者 数	
血 液 ろ 紙	フ ェ ニ ー ル ケ ト ン 尿 症	19,534	9	1	1
	ガ ラ ク ト ー ス 血 症	19,534	24	3	0
	ヒ ス チ ジ ン 血 症	19,534	2	2	2
	ホ モ シ ス チ ン 尿 症	19,534	13	2	0
	メ イ プ ル シ ロ ッ プ 尿 症	19,534	5	0	0
	ク レ チ ン 症	19,534	207	22	5
	T B G 欠 損 症	19,534	88	0	0
	先 天 性 副 腎 皮 質 過 形 成	19,534	66	8	1
総 数	156,272	414	38	9	

表4 神経芽細胞腫スクリーニング検査状況

昭和61年度

区 分	件 数	再検査数	精密検査	患 者 数
神経芽細胞腫検査（尿ろ紙）	15,661	76	17	2

表5 妊婦甲状腺機能検査状況

昭和61年度

区 分	件 数	再検査数	精密検査	患 者 数
妊婦甲状腺機能検査（血液ろ紙）	2,100	80	40	17

### 3 環境検査

飲料水、家庭用品等の安全性の確保を図るため、水道法に基づく飲料水検査のほか、遊泳用プール水等の一般環境検査及び有害物質を含有する家庭用品の規制に関する法律に基づく家庭用品検査などの試験検査並びに調査研究を行っている。

また、昭和56年度から継続している寒冷地における一般家庭の住居衛生調査については、保健所と共同で室内のダニ及びカビ類の季節的消長について調査を行い、第46回日本公衆衛生学会等で報告した。今後とも、健康リビング推進のため、飲料水及び住環境などに関する調査研究を行っていききたい。

#### 〔業務内容〕

昭和61年度における環境検査の実施状況は表1のとおりで、検体総数は1,977、総項目数は18,214であった。主な検査内容は次のとおりである。

#### (1) 飲料水検査

行政、営業者及び一般市民からの依頼により、専用水道、井戸水等の飲料水検査を行っている。

昭和61年度の水質基準適否状況についてみると、依頼の大部分を占める一般検査の検体数と適合率は1,393検体の72%であった(表2)。なお、水質基準に適合しない検体の項目別内訳は、色度、鉄、大腸菌群、濁度の順である(表3)。

このほか主に専用水道事業者からの依頼により、トリハロメタン類及びトリクロロエチレン等の検査も実施している。

#### (2) 一般環境検査

営業者からの依頼により、プール水143検体を検査したが、この結果を札幌市プール指導要領に定める水質基準と比較すると残留塩素を除いた不適率は、2%(3検体)あり、これは全て過マンガン酸カリウム消費量の基準超過によるものであった。

#### (3) 家庭用品検査

衛生管理部からの行政依頼により、繊維製品や家庭用品の試買品156検体について、防虫加工剤、防炎加工剤及び有機溶媒等の有害物質延231項目の検査を実施したが、結果はすべて基準に適合した(表4)。

表 1 環境検査実施数

昭和61年度

検 査 名		検 体 数	延検査項目数
飲料水検査	一 般 検 査	1,393	14,671
	全 項 目 検 査	67	1,809
	特 殊 項 目 検 査	184	440
	計	1,644	16,920
一般環境検査	プ ー ル 水 検 査	143	859
	浴 場 水 検 査	—	—
	一 般 室 内 環 境	34	204
	計	177	1,063
家 庭 用 品 検 査		156	231
総 数		1,977	18,214